

平成28年度 学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校
重点目標	1 学力の向上と進路希望の実現 2 充実した学校生活の実現 3 開かれた学校づくりの推進

A	ほぼ達成（8割以上）
B	概ね達成（6割以上）
C	変化の兆し（4割以上）
D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	15名
	生徒	15名
	事務局（教職員）	6名

校 自 己 評 価					学校関係者評価		
28年度目標				28年度評価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・学力向上を目指し授業単位数の確保と部活動等との両立のため65分授業、週34単位授業を実施している。入学時より確かな学力を身につけさせる系統的な指導を行い、第一志望実現を目指している。教育課程の検討、生徒の自律心を育てる取組を実施している。引き続き、授業力向上の取り組み、授業時間の確保、生徒の学習習慣の確立、結果分析の共有・活用方法の構築が課題である。	○学習指導の充実と学習習慣の確立 ○主体的、自立的な進路選択力の育成	①授業力向上・進路指導の充実のため、外部研修への参加を継続して行き、成果を持続させるとともに情報の共有化を図る。 ②授業研究週間を設定し相互授業見学を積極的に行い、教材・課題の共有を定着させ、授業力の向上を図る。 ③進路実現や学力の定着等を考慮した教育課程の検討を継続する。 ④授業達成目標や学習方法を明示し、初期学習指導（所北セミナー）で学習習慣を早期に確立させる。三年間活用できるシラバスを作成する。 ⑤65分34単位授業の効果を生かす時間割の作成・運用（年間授業時間数の均等化）を行う。 ⑥進路行事、LHRを通して将来を考えさせる中で体系的な進路指導を行う。学年や時期に応じた的確な進路情報の提供や体系的な進路学習や実力テストを実施する。 ⑦全学年で実施している定期考査、実力テスト、模試等において生徒が計画・準備、テスト後の解き直しができるように習慣づける。	①外部研修参加割合 ②年3回以上の授業研究週間の設定ができたか。 ③進路実現に則した教育課程が編成できたか。生徒授業アンケートによる授業満足度に成果がみられたか。 ④学習習慣（学習時間の増加、学習の質的向上など）やシラバスの改善が図れたか。 ⑤実質授業時間数の確保ができたか。 ⑥進路行事の内容充実が図られたか。また的確な結果分析が行われたか。 ⑦学習計画表、解き直しノート等の活用が定着できたか。	①外部研修会参加者数は引き続き高い水準だった。内部研修も実施した（2回）。 ②新しい授業法へ取り組みも積極的に行い、彩の国教育週間公開授業、未来を拓く「学び」推進事業公開授業を実施し、参加者数も増えた。 ③進路実現に則した教育課程を継続して模索、検討した。授業満足度は前年を概ね良好で、前年以上の評価があった。 ④学習習慣の確立は十分ではないが、定期考査、実力テストを見据えた、計画・準備ができるようになりつつある。具体的目標を掲げられるように、志望校検討会を2年次にも実施した。改善した教育課程に対応したシラバスの編纂をおこなった。 ⑤学期ごとのクラス別科目時間数の差を1時間以内に抑え、年間授業展開数の均等化を実現した。 ⑥進路行事、進路LHRは計画通り実施できた。多様な学力に対応できる、新たなキャリア教育に取り組んだ（1年）。 ⑦実力テストに向け志望校を掲げ、目標、計画を具体的に立て、準備して受験するようにした（2年）。解き直し時間を試験直後に、できるだけ確保した。	A	①研修結果の活用の充実を図るための、フィードバック方法の検討。 ②アクティブラーニングなどの授業研究を進め、教員全体の授業力の向上を図る。 ③生徒の進路希望の実現に沿う育課程の改善を引き続き検討する。 ④将来に対する目的意識を高めることで、自ら計画的に、学習に取り組めるようにさせる。さらに、学習の質の向上をはかる。 ⑤年間の授業時間の確保に努める。理数科2年生の課題研究の時間確保に努める ⑥キャリア教育の改善にさらに努める。 ⑦解き直しへの意識を高める。
2	・全職員の共通理解のもと、統一的な生徒指導体制が確立されてきている。多くの生徒が基本的ルールを守り良好な生活状態で、学習、部活動、行事活動にそれぞれ意欲的に取り組んでいる。その一方で、生徒の自己管理意識の育成を図ること、さらに主体的・自主的に行動する能力の育成が課題といえる。	○基本的生活習慣の確立 ○生徒会活動・部活動の充実	①基本的生活習慣の確立とルールやマナーについて、その大切さを様々な場面で理解させ、校則の遵守の徹底指導、登校指導や遅刻防止指導、下校指導、服装・頭髮指導、着崩し防止指導自転車指導を組織的、計画的かつ継続的に行う。 ②全職員の共通理解を重視し、統一的な指導ができるように連携に努める。生徒に対しては必要に応じて個別指導や学年集会等を行い、生活面等における指導にあたる。また1学年を対象に交通安全教育、薬物乱用防止教育を実施する。 ③生徒一人一人が行事等において自分の意見を持って、お互いに交換できるように助言する。また、自覚と責任をもって行動するように指導する。部活動がよりよく、さらに盛んになるための支援をしていく。	①指導計画が全て実施できたか。 ②指導の効果が表れ、課題の改善がみられたか。 ③生徒会活動全体の中で、主体的な意見の交換や活動が見られたか。部活動の加入率や学校行事への満足度が高い水準を維持できたか。	①一貫した指導の継続により、多くの生徒が基本的生活習慣を身につけ、しっかりとした服装で生活できている。しかし精神的な問題を抱える生徒が増えつつある。 ②職員の共通理解のもと計画的に指導が実施され、各種講演会では外部講師による講習、DVD視聴により、充実した指導ができた。また、必要に応じて他分掌、他機関との連携をはかり臨機応変な姿勢で指導することができた。 ③教員の助言を得ながら、生徒会本部役員や実施委員会の生徒を中心とする行事の運営が概ねできた。天候に恵まれた体育祭は全予定を実施することができ、文化祭では来場者数が昨年に続き、来校者が5,000人を超える結果となった。また、アンケートで生徒会関係（体育祭・文化祭・予餞会・対面式・走馬燈）を「充実」や「やや充実」を選択した生徒が90%近くいた。部活動についても90%以上の加入率が継続している。	A	①事件・事故を未然に防ぐため他分掌や他機関との連携をさらに強め、積極的生徒指導に努める。各種指導計画や指導方法を検討改善し、さらに充実した学校生活を送れる環境づくりをすすめる。 ②全職員の共通理解のもとに、さらに安全・安心な学校づくりを目指す。 ③生徒会の一員としての「自覚と責任」を持った行動を心がけさせながら、体育祭や文化祭に関するアイデアを積極的に募集し、できる限り反映させていくなど、生徒全員をより巻き込んだ行事運営を行う。部活動と学校行事についてはそれぞれ加入率・充実度を維持・向上させていく。
3	・「所北を考える会」（学校評価懇話会）を中心に、教職員・生徒・保護者・学校評議員で課題を共有し話し合うなど開かれた学校づくりを進めている。地域の住民への授業公開、ホームページでの情報発信などを行っている。学校からの情報発信の成果を分析することが課題である。	○信頼に応える学校づくり ○情報の発信	①年2回実施される「所北を考える会」（学校評価懇話会）で出された多方面の意見について改善に結びつくものをよりよいものにするために、学年、教科、分掌で話し合い、学校改善への職員の共通理解を深める。 ②保護者会での学校評価アンケート内容をより工夫し、保護者の要望を長期的視点で、本校の課題として検討をしていく。 ③開かれた学校づくりの一環として授業公開を行い、地域住民や保護者へ、ホームページ及び携帯メールでも周知する。 ④ホームページや進路・学年通信、PTA広報誌等を通じて、部活動の活動状況を含め、情報発信をさらに充実させる。またあらゆる機会を通じて理数科の情報を発信する。 ⑤緊急連絡携帯メールを保護者会等通常の学校からの連絡や学校行事の際にも活用し、保護者への情報発信を行う。	①「所北を考える会」の内容をより充実し、その結果を教職員が共有できたか。 ②保護者の本校への期待が高まるなかその内容を把握し、今後の重点課題について意見交換ができたか。 ③授業公開の参加者が増加したか。 ④新着情報が、一目で分かるレイアウトを工夫し、情報発信を充実させたか。 ⑤保護者への情報発信が浸透し、保護者会等への参加者が増加したか。	①年2回の「所北を考える会」では4～5名のグループに分かれ、テーマを設定し活発な意見交換が行われた。その内容を職員会議で報告し、関係する教科や分掌等では、定例会議の中で、学校改善への共通理解を深めることができた。 ②保護者アンケートは12月に全学年一斉に実施し、82%の高い回収率になった。職員会議でその結果を配付するなどして情報を共有しており関係する委員会等での検討がなされている。また、HPにも掲載した。③授業公開への地域、一般からの参加が28名と昨年比で倍増、全体でも昨年を上回る85名となった。④理数科の募集リーフレットを作成し、中学校や塾等に配布するとともに、HPに掲載した。学校行事、部活動など普通科及び理数科の最新情報の更新を頻繁に行い情報発信を充実させることができた。⑤緊急連絡メールを活用し、台風や降雪等に伴う注意喚起を随時発信するとともに、保護者会への参加や文化祭への協力等を促し、参加者も増加した。	A	①得られた意見を予算面も考慮して、改善への道筋を立てることが課題である。 ②理数科開設に伴う変化を踏まえ、アンケートの結果を分析し、重点課題について議論を深める。③在籍している生徒保護者の参加者数をさらに増加に導く工夫をする必要がある。④今回は連続した3日間で実施。生徒保護者はもとより地域住民への参加を呼びかけた。また、地元の教育関係者の参観が増加しているようだ。④理数科の情報発信を理数科通信やHP、中学校や塾訪問等でさらに充実させる。⑤緊急メールの活用について、情報発信のタイミングや回数など、更に工夫する余地がある。

・学習指導が充実しているが、キャリアという人生全体の話も丁寧にしてもらいたい。
・外部研修に高い水準で参加しているが、先生の能力アップ、新しい授業法の取組、今後とも積極的に進めてほしい。
・授業研究や外部研修といった授業向上への取組を充実させていることは非常に良い動きである。これらの取組が指導の中でどう積みあがっているか振り返り、総括し、より高いレベルで指導の充実が図られることを期待する。
・学習習慣の確立の達成の中で「解き直しの時間」の定着は重要である。
・迷っている生徒に対する面談を強化し、生徒の意識の高揚に努めてほしい。

・行事運営のレベルがかなり高い。
・生徒会活動、部活動で、生徒が主体的に目標を設定し、目標をクリアする方策やチームワークでスキルアップすることを望む。生徒はその能力を備えている。
・精神的な問題を抱える生徒に対するケアをより充実してほしい。PTAでも対応について検討している。
・限られた施設環境の中で部活動はよく頑張っている。
・生徒会の活動は限られた時間の中で、素晴らしいアイデアもあり、各種の行事は地域住民への大きな活力となっている。
・多くの生徒が基本的生活習慣を身につけ、通学時の生徒の様子は上品である。
・ルールの徹底と所北生としての自覚の持たせ方、主体的活動に対する指導など、生徒指導体制がしっかりしている。
・「子供が先生を信頼できる学校」素晴らしい学校である。
・地域社会と関わる活動を継続してほしい。
・ホームページの発信が非常に良い。内容の更なる充実を努めてほしい。
・所沢東公民館を利用した部活動の地域への貢献が大きい。
・連絡メールの配信は保護者にとって助かっている。
・「所北を考える会」での意見交換や改善に向けた議論は活発で、学校運営や生徒の学びを深める上で非常に良い取り組みである。ここが出たアイデアをその後の活動にどう生かしたかフィードバックできればさらに良いと思う。
・学校・保護者・地域が連携し、生徒がより充実した学校生活を送れるよう情報発信し、情報を分析していくことが今後も望まれる。